

令和7年8月6日

東京たま広域資源循環組合

エコセメント化施設基幹的設備改良工事及び運営事業に係る
契約締結について

東京たま広域資源循環組合（管理者：多摩市長 阿部裕行）が管理する東京たまエコセメント化施設（東京都日の出町）は、平成18年に竣工し、計画的に補修・改造等を行っているものの、竣工から約19年が経過し、老朽化しており、将来の安定的な運営を見据えた対応や各設備・機器の保全が課題となっています。

このような状況を踏まえ、今後も25市1町約400万人が出すごみの焼却残さを全量安定的にリサイクルしていくため、太平洋セメント株式会社（代表取締役社長：田浦良文）を代表とする事業者と協定を締結し、焼却残さの搬入を継続しながら、基幹的設備改良工事を行うことで施設の延命化を図り、今後も二ツ塚処分場の埋立てゼロを継続してまいります。

そこで、本日、本施設の建設工事請負契約及び運営業務委託に係る契約締結を下記の通り行いましたのでお知らせします。

記

- 1 契約相手 建設工事：太平洋エンジニアリング株式会社 代表取締役社長：伊澤良仁
運営業務：東京たまエコセメント株式会社 代表取締役社長：田中勲
- 2 期 間 建設工事：令和7年8月6日から令和13年3月31日まで
運営業務：令和8年4月1日から令和33年3月31日まで（25年間）
- 3 契約金額 建設工事： 528億円
運営業務：1,686億4,628万円



契約締結時の様子
(左から、伊澤社長、田浦社長、阿部管理者、
田中社長)



現在、埋立てゼロを継続している
二ツ塚処分場の中にあるエコセメント化施設

<参考>

1 エコセメント化施設更新工事等基本計画（概要）
（令和5年3月策定）

- 基幹的設備改良工事竣工後 20 年間の安定稼働が可能となる設備工事を実施
- 焼却残さ埋立ゼロの実質継続
- マテリアルリサイクルの推進（分割工事の実施）
- 現在想定される施設停止日数は合計 415 日であり、5 年間で工事を実施
- CO₂排出削減量（削減率合計 3%以上）により、環境負荷を低減
- 災害廃棄物処理体制の強化
- 災害時にも活用可能な乾燥灰受入口及びタンクを増設

工事では次の設備を改良し、環境負荷の低減に努めます。

	設備の対策内容	期待できる効果
1	高効率モータへの取替等	搬送コンベヤ等の電力の使用量削減
2	セメント原料の生石灰タンク新設	生石灰の投入量増加により、石灰石や重油の使用量削減
3	クリンカ冷却設備の省エネ型導入	省エネ設備を導入し、重油、電力の使用量の削減
4	焼成炉の省エネ化	焼成炉の口元部の改良、駆動装置の省エネ化により、重油と電力の使用量削減
5	重金属回収設備脱水機の省エネ化	最新設備を導入し、電力の使用量を削減

2 工事に伴う施設停止期間中の対応について

エコセメント化施設の基幹的設備改良工事による施設停止期間中（年間 100 日程度を予定）においても、基本計画にて策定した焼却残さ埋立ゼロの実質継続を実現するため、必要な施設を整備し、焼却残さの一時埋立てを実施します。

焼却残さは、石灰石で覆土して一時的に埋め立て、その後、施設稼働時に掘り起して、改良後のエコセメント化施設で再資源化します。

本対応については鹿島環境エンジニアリング株式会社に委託しています。